



わたしを支え、 鼓舞した紙

中江有里

仕事を始めたころのわたしは、半紙半分に収まっていた。

いきなり訳がわからないことを書いてしまった。解説すると、半紙半分（B4の紙半分）に収まったわたしのプロフィール文のこと。一般社会で言うところの履歴書だ。

事務所が作ったそれには、名前、生年月日、出身地、身長、体重、スリーサイズといった基本情報と仕事の履歴が記される。他に趣味や特技、血液型、学歴、自己アピール文などプロフィールは何を掲載してもいい。だが会社の意向もあってわたしのプロフィールはシンプルなものだった。この半紙半分と写真二枚（全身、バストショット）をファイルにセット

トして、マネージャーはテレビ局や制作会社へ売り込みに行ったり、わたしを連れてオーディションに行ったりする。初めて自分のプロフィールを見せられた時に、こう思った。

「なんてわたしは小さいのか」

当たり前だが、わたしには何の実績もなく、ほとんど誰にも知られていない。だからこんな風にプロフィールを作り、売り込みをしては仕事を獲得しにくい。薄い半紙を手にして、自分はまだ半人前、紙一枚に満たない存在なのだと痛感した。そして次に心に決めた。

「この紙を倍の大きさにする」

オーディションで得た仕事を一つ一つ書き加えていき、ようやく半紙一枚が埋まったのはそれから約一年後だった。しかし一枚になっても、以前とほとんど変わらないかった。相変わらずオーディションに出かけ、大抵は落とされて、たまに受かる日々。わたしは焦った。どんどんこの紙を増やしていかなければいけない。名付けて「プロフィール倍増計画」。紙に記す実績をやることにひとり燃えた。

紙は二枚、三枚と順調に増えていった。五枚になったある日、突然プロフィール



なかえ・ゆり ●女優・作家・脚本家。大阪府生まれ。法政大学卒。1989年芸能界に入り、数多くのTVドラマ、映画に出演。2002年「納豆ウダン」で脚本家デビュー。NHK・BS「週刊ブックレビュー」では長年司会を務めた。著作に「ティンホイッスル」「ホンのひととき」など。新聞、雑誌にエッセイや書評を連載する傍ら、TVコメンテーターとしても活躍中。

が一枚に戻った。

なんと言うことはない。代表作品だけを残して、細かな経歴を削除したのだ。長すぎるプロフィールは読む方に負担を与えるから、とマネージャーは言った。こうしてわたしの「プロフィール倍増計画」は終わった。

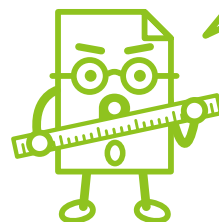
実のところプロフィール紙を増やそうと決めたのは「こんなに短い文章でわたしをまとめられたくない」という反発からだった。でも「自分はないして語ることもない人間だ」と目に見えて気づかせてくれたのは、あの半紙半分のプロフィールだった。

紙は記録する装置だ。自分の仕事を記録し続けたプロフィール紙は、わたしを支え、紙を増やすという目標が、わたしを鼓舞してくれた。紙がわたしの人生にこんな影響を与えてくれたことを、このエッセイを書きながらあらためて思い知った。

ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

厚さの秘密は、薄さです。

国語辞典や英和辞典などに使われるのは、「インディアペーパー」という紙。薄くて軽いのに、強い。文字の裏写りもない。今の厚さで、こんなにたくさん情報が載せられるのは、この紙のおかげなんです。もし、この紙がなかったら、今より何倍も分厚くなっていたのかも。



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

<http://kamitsubu.com/>

今回は7月7日号、出雲充さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

衣装協力 ■ オールド イングランド / ナイツブリッジ・インターナショナル

photo : Takuya Sugiyama